



知的専門性高めて

経済学研究科長 遠山 浩

今日の社会にはさまざまな課題が山積し、また出現する経済現象も複雑になっていきます。それゆえ、知的専門性を高め対処することはたいへん重要で、大学院入学にあたり抱かれた「志」を忘れずに、学位を取得するため十分に研究時間を確保し、研究を通じて論理的思考力を磨き、さらに専門的な発表能力を高めてください。



大学院へようこそ

法学研究科長 小川 浩三

法学の勉強は、しばしば暗記だと言われます。さまざまな資格と結びついているため、資格試験に受かるための勉強が中心となります。法学研究科での学修・研究はこれとは全く性格を異にします。条文さえも、正しいと前提することはできません。そのためには、正しいと前提してはいけないのです。この根底的な問いかけから、条文のより深い理解とより柔軟な適用を可能にします。



一緒に壁に挑もう

文学研究科長 飯尾 秀幸

いよいよ研究者としての道を歩まれることになりました。学問を進展させようという期待が胸にあふれていることでしょう。もちろん不安もあるでしょう。たとえば先行研究と対峙するとき、これを越えられるかと。しかしこうした「壁」に挑むことはやりがいがあることです。それは楽しい時間でもありません。たとえ孤独感に押しつぶされそうになっても、同じ目的をもった教員や院生仲間がさまざまな著書があります。読み込んでみてください。



大いに議論しよう

経営学研究科長 大曾根 匡

入学おめでとうございます。いよいよ研究者としてのスタートを切ることになります。学会でオリジナリティーのある研究成果を発表するという目標を立てて、研究を進めてほしいと思います。ただ、研究は作業と違い、努力しても成果の出ないこともあります。そのようなときに頼りになるのが教員や院生仲間です。異なる分野の人と議論すること、研究を多面的に多角的に考察させるので、新たな研究の切り口の発見につながります。生田緑地を見下ろす素晴らしい環境の3号館で、教員や院生仲間と大いに議論し、よい研究成果を生み出すことを期待しています。



応用力身につけて

商学研究科長 建部 宏明

大学院へのご入学おめでとうございます。これから、山あり谷ありの大学院生活であると思えます。商学研究科は商学専攻と会計学専攻から成り立っていますが、軸足を置く専門以外の分野も学んでほしいと思っています。実社会ではこれが商学、ここが会計と明確に分かれているわけはありません。お互いに不可分の関係にあります。そこで、両専攻をまたぐような学修をしていくことで、社会に適應できる一層の応用力を身につけることができます。これが大学院に進学する意味であると言っても過言ではありません。



温かい心の法律家に

法科大学院長 佐野 裕志

法科大学院入学おめでとうございます。法科大学院は修了後の目標が明確に定まっていますので、これからは、将来を見据え、勉学にいそいそしてください。法律家は、法律を専門とするプロフェッションであるとともに、人の持つ不幸を正面から受け止める職業です。法学についての総合的な理解や法律家として必要な技法をすべて身につけたうえで、人の痛みがわかる温かい心を持たなければなりません。そのためのカリキュラムも人的・物的支援も整っています。



「問い」発し「問い」に答える

経済学部長 内山 哲朗

大学での学業生活では、社会・経済をめぐる諸事象に目を凝らし、「なぜ」それが生まれてくるのか、それが投げかける問題の本質とは「何か」といった、「問い」を自ら発し、その問いに自ら解答を与える能動的な思考が大切になってきます。能動的な思考のために、言葉の数を増やす日、言葉の数を減らす日、言葉の数を増やさない日、言葉の数を減らさない日、思考力は語彙数に比例するといっても過言ではありません。



社会知る道具身につけよう

法学部長 森川 幸一

法学部の学びで得られる、もの見方や考え方(リベラルマインド)という「道具」を使えば、今はほんやりとしか見えていない社会がより鮮明に見えるようになるでしょう。その先にはあなたが知らない世界が広がっています。あなたを待っています。



「始まりの日」について

経営学部長 蔡 芒錫

ネクタイを締めます。私の一日の「始まり」です。その日の目標を立てる瞬間です。一方、最も緊張します。一方で、最も好きな瞬間でもあります。それは、目標が達成できた時の喜びを想像する瞬間でもあります。今日は、皆さんにとって大きな「始まりの日」です。この日にぜひとも共有してほしい目標が一つあります。それは、「4年後は、今の自分とは違う、大きく成長した自分になること」。



課題克服し挑戦し続けよう

商学部長 渡辺 達朗

新入生の皆さん、ようこそ商学部へ。夢や希望をいっぱい抱えて入学してきたひと、なんとなく入学してきたひとなど、いまの思いはさまざまでしょう。しかし、何かの縁があって商学部に入學してきたのですから、講義やゼミナール、あるいはサークルで出会う教員や同級生、先輩と過ごす時間を大切に、それらを通じて自らの課題や目標を見いだしてください。



ひとりの時間も大切に

文学部長 廣瀬 玲子

入学おめでとうございます。大学生には、大学に通い、授業を受けるだけでなく、学生ならではの特典があります。たとえば、学割で入場できる博物館・美術館・映画館などに足を運んで、ぜひさまざまな文化に親しんでほしいと思います。人とのつながり、自分ひとりで文学や芸術に向きあう時間も、そして疲れたらほっとする時間も大切です。好きな分野を自由にゆったりと学ぶ4年間は、皆さんの人生の中でもとても貴重な時間となるはずです。



学びをカスタマイズしよう

ネットワーク情報学部長 松永 賢次

ネットワーク情報学部の在学中に大きく伸びた先輩たちのことを思い起こすと、そのきっかけは、1年次生のときに研究室を訪れて、ゲームプログラマーやセキュリティエンジニアになりたいたい、留学してみたい、ITコンテンツで活躍したい、起業してみたいなど、自分の夢を語ってくれたことだったと記憶しています。



宮殿の完成を目指して

人間科学部長 山上 精次

新入生の皆さん、専修大学に入学おめでとうございます。どんな学問分野でも学びの初期段階では、基礎的な知とスキルをしっかりと身につける必要があります。そうした基礎となる土台があつてはじめて、大学での学びの究極の目的である創造性にあふれる宮殿を建立することができるといえます。

学部長・大学院研究科長・法科大学院長から新入生へのメッセージ